

APEX CLUB

'00/6

アペックス産業株式会社

第10号

『APEX CLUB』

発行 2000年6月1日(通算第10号)
 発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会
 〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
 電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
 発行人 元木 貢 (編集委員) 和田芳武 白坂昭子
 岩佐賢一 山口カ広
 (書記) 毛塚淳子
 制作協力 株式会社オービット

虫の声

☆早いもので『APEX CLUB』も今号で第10号を数えます。改めて皆様のご協力により、号を重ねることが出来ましたことを感謝申し上げます。これからもよろしくご愛顧ください。
 ☆「標本棚」のテーマは、次号も《私とペット》です。今号はネコ特集でしたが、次号はどんなペットが登場するかお楽しみにお待ちください。投稿を歓迎いたします。

ギャラリー



第66回独立展(1998) 出展作品

つちどおちる間の中
 作・桜井 浜江(独立美術協会会員)



●プロフィール 一九〇八年生まれ、山形県出身。昭和六年の第一回独立展に入選以来、一貫して同展に出品を続け、昭和二十九年に独立美術協会会員となり、現在に至っています。東京女子医大職員美術部の顧問として、月一回指導にあたり、毎年十二月に弥生講堂ホワイエで学内展を、また、七月には銀座竹川画廊で教え子による「トシ展」を二六回にわたり続けています。
 一九九五年の桜井浜江展(青梅市立美術館)に際し、美術評論家の瀧井三氏は『豪気なたくましく、その抽象志向の大エネルギーにいつも打たれている。桜井先生は、命がけというか、自分の命と引きかえに絵を描いている感じで、その凄みは一つの極点に立つとしか言いようがない。それで私は、畏敬の念を抱くようになった』と評しています。
 一九九八年、先生の六十七年にわたる画家生活が、作品の制作過程とともにNHK総合テレビ番組「土曜の美の朝」で放映(十年十月三日)されました。

むし籠

痛風のつらさ

痛風で、痛くて靴も履けない激痛に苦しむ事がある。
 その日、M君は痛さに耐えかねて病院に行ったが、すぐに痛みが治まるわけではなく、しかも重要な約束を控えて休むわけにも行かなかった。思案の末、M君はなんと裸足のまま一流ホテルに入って行った。靴も履かずにロビーを歩くのは、辛く恥ずかしかつたが、周囲の好奇な目など、痛みには比べればと耐えたのだ。別の日の朝、痛みで靴が履けず裸足で車を運転して出勤。ところが首都高速で車がエンコしてしまった。ラジオから「故障車を先頭に渋滞五キロ」の交通情報が流れる中、裸足で退避所まで車を押して行った。脇を通り過ぎる車の運転手達の視線の冷たかったこと。もつとずつと前から渋滞していたのだが、「このバカのせいで迷惑な」と言う声が聞こえる気がして、じつと車の陰に身をひそめていた。

話は通じれば良い

昼食時、中年のオジサン三人が携帯電話について話をしていた。一人が電車内での携帯電話使用禁止について「あれを近くで使われるとヘルスメーターが狂うことがあるんだ」と言うと、別の一人が「そうそう、心臓にヘルスメーターを付けている人って、案外多いらしいよ」と応じ、それでけっこう話が通じていた。

それで思い出した。昔、野球場の場内放送で「バスクリンにお入りのお客様、試合の妨げになりますので、直ちにバスクリンから出て下さい」と言い、大笑いになったことがあった。話が通じて風呂から出た人は、湯ざめしなかったかなあ?!

虫めがね

☆昨年十二月二十一日、当社は創立五十周年を迎え、ささやかな社内祝賀会に併せて社史「五十年の歩み」を発行いたしました。

☆当社は昭和二十四年、元木三喜男(現相談役)が創業。米軍の昆虫学者モリル氏(Mr. MORILL)の指導のもと、青酸ガスによる船舶の燻蒸作業から出発、横浜・神戸へも進出しました。しかし、燻蒸作業中に社員が事故死する不慮の事態に相次いで見舞われ、その結果、燻蒸作業からの撤退を決定、以後、ビル等建物の害虫防除事業に専念して今日に至っております。この間、昭和四十三年に元木三喜男が、同業協会を設立。会長に就任し、ビル管理法による指定団体の認定取得、資格制度の確立、社団法人化等、業界の発展にも大きく寄与してまいりました。

また、不審火による社屋火災、四次にわたる業務改革の推進等、常に苦難への挑戦の歴史でもありました。☆今後も、これまで以上にしっかりと足元を見据え、事業に専念してまいります。引き続きご愛顧のほどお願い申し上げます。(貢)
 *社史「五十年の歩み」…まだ若干在庫がございます。ご要望の方はご連絡ください。

おじやま虫

シラミ



【プロフィール】シラミは哺乳類の体毛に寄生し、一日数回宿主から吸血する。吸血後の痒みの激しさは蚊やノミの比ではなく、特有の色素沈着を伴う場合もある。また、種によつては伝染病を媒介するものもある。日本では一時、シラミの被害はほぼなくなったが、国際交流が盛んになり海外から持ち込まれるのか、最近再び被害が増えている。

【種類】一人に寄生するシラミは、髪の毛につくアタマジラミ、衣類につくコロモジラミ、陰毛につくケジラミの三種類だけ。シラミの仲間には寄生特性が非常に強く、たとえば

牛や豚のシラミが人に寄生繁殖することはない。しかし、稀にケジラミが髪の毛につくようなこともある。
 【駆除】市販のピレスロイド系粉剤を患部や衣類に散布すればよいが、卵には効かない。したがって十日おきくらいに二、三回散布し、卵から孵化した幼虫を駆除するとよい。駆除する際に最も重要なことは、家庭や学校など、集団で徹底した駆除をすること。少しでも残ると、またすぐ繁殖、感染し、元に戻ってしまう。感染を防ぐためには、ヘアブラシ、タオル、寝具や衣類などの共用は避けるようにしたほうが良い。